令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について（諫早市）

諫早市教育委員会

Ⅰ 調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日・調査内容

令和7年4月17日（木）

（中学校理科は令和7年4月14日（月）から4月17日（木）までの間）

・小学校調査（国語、算数、理科：第6学年：各45分）

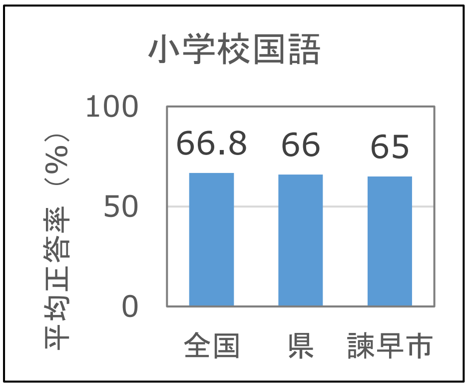
・中学校調査（国語、数学、理科：第3学年：各50分）

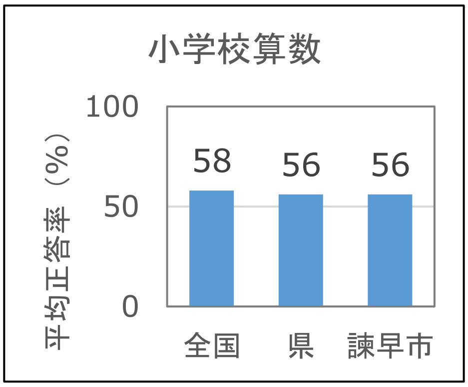
Ⅱ 結果の概要

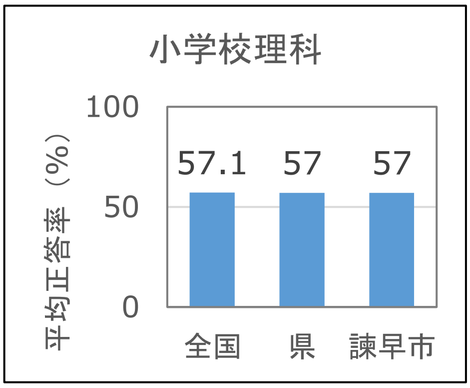
1 教科に関する調査

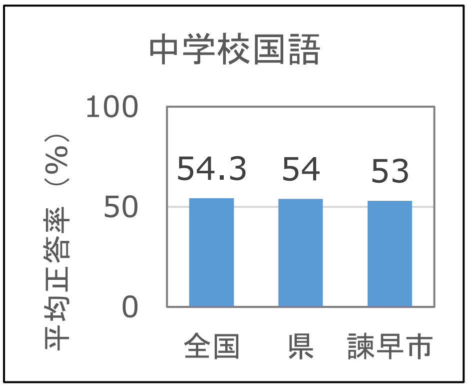
1 平均正答率

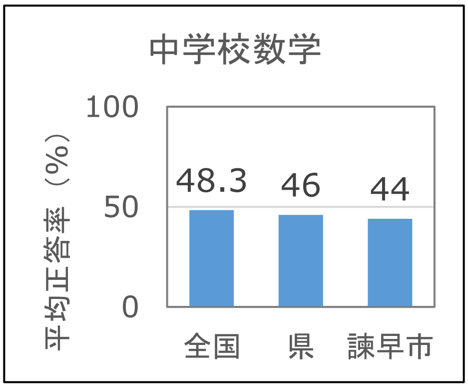
小・中学校ともに、国語、算数・数学、理科で 全国平均を下回った。

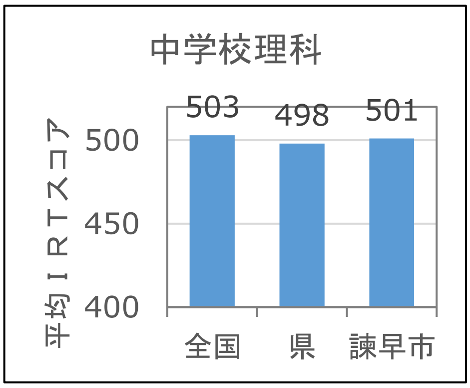












【補足】 国語、算数・数学、小学校理科：全体の何割に正解したかを表す「平均正答率（%）」です。（最高は100%）
中学校理科：「平均 IRT スコア」（基準を 500 とした国独自の学力のものさし）で表しています。

2 市全体の課題

・小学校・中学校ともに、国語科の「書くこと」

・小学校算数科の「変化と関係」、中学校数学科の「数と式」「図形」

【総括】

問題を正しく読み取り、複数の情報から必要な情報を選択したり関連付けたりすること、また、それらをもとに自分の考えをまとめ表現することに課題がある。

2 質問紙に関する調査

○「人の役に立つ人間になりたい」、「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は96%を超えているなど、道徳性については、継続的に高い傾向にある。

○「自分には、よいところがある」と思っている児童生徒の割合が90%を超え、自己有用感も高まってきている。

○「将来の夢や目標を持っている」については、小学校は今年度も全国平均と同程度であった。中学校は昨年度から大幅に上昇し、全国平均を大きく上回った。

○「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる」については、小学校は全国平均を上回った一方、中学校は全国平均および昨年度と比べて下回った。今後は、特に中学校における主体的な学びのさらなる推進が必要である。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、昨年度の大幅な上昇に続き、今年度はそれをさらに上回る結果となった。このことから、地域との良好な関係性や地域や社会への関心の高さがうかがえる。

○「授業で調べる場面で PC・タブレットなどの ICT 機器を週1回以上使用している」児童生徒の割合は、今年度90%を超えた。このことから、学校現場における端末の活用が着実に浸透していることがうかがえる。今後は、これまでの「活用の定着」から一歩進め、児童生徒の学びを深めるための「効果的な活用」の推進が必要である。

3 今後の取組について

1 「教科に関する調査」における本市の課題を解決するための方策について検討する。

2 「質問紙に関する調査」における本市児童生徒の良さを生かした学習活動の在り方を考え実践する。

3 各種研修会等において、市の課題や成果等を示すとともに、取組が良好な学校の実践を紹介するなどして、各校を支援する。